

『救われた者の歩み②』

'22/10/09(会員総会)

聖書箇所:エペソ人への手紙 4 章 22-24 節(新約 p.378)

私たちクリスチャンは、神様によって、どのような者へと変えられたのか？ そういったことを、私たちは今一度、復習しています。…と言えますのも、それこそすべての基本であり、すべてのことの源だからです。来週から、私たちは様々な実践的な教えについて学んでいきます。…しかし、私たち、決して忘れてはならないのは、神様の望んでおられるような、良い行ないをしていくから救われる、というのでは決してありません！ 救われたから…、神様によって変えられたから、神様に従っていきましょう！ とするのです。だから、例えば、[エペソ 4:1 のみことばにしても、『…召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。』](#)と教えるのです。神様によって救われた私たちクリスチャンにとって…、その神様に従っていくことはむしろ、当然であり、至極、自然なことなのです。

命題: 救われた後の歩みとは、どのようなものでしょう？

その証拠に、私たちクリスチャンは、それまでの考え方やかつての価値観など…、その生き方を大きく変えられたはずで、神様が、そのように変えてくださったのです！ 神様を知らない頃の…、かつての人生は、ほとんど無意味なものであったと、みことばは教えます。救われる前に、そうは思えなくても…、本当に救われた後なら、それがよく分かるはずで、この地上で、どれほど多くの富を貯えても…、どれほどの地位や名誉を手に入れたとしても、それが一体何になるのでしょうか？ あくせき働いて…、ピリピリするようになって、無理をして体を壊したりして…、あるいは、家族を犠牲にして…、それが一体何になるのでしょうか？

せっかく、すべてを造ってくださった神様が、私たちを愛し…、私たちに語りかけてくださっているのに、その声に耳を傾けず、心を頑なににしてしまっているのが、救われる前の私たちの姿でした。そのため、私たちの良心も無感覚になってしまい、益々、墮落してしまっていたのです。それが、みことばの教える、かつての私たちの姿でした…。そんな私たちを、神様を変えてくださったのです。それが「救い」であります…。

さて、先週に続いて今日も、私たちは、「救われた者たちの歩み…、神様の評価」について学んでいきます。今日は、会員総会があるので、できるだけ、早くに終わらないといけません、このみことばを学ぶことによって、私たちは、自分が今、どういった状況にいるのか？ また、神様の恵みについて再確認することができます。…どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 4:20-24 をご覧ください。

I・キリストと、個人的な関係を持つ者とされた！(20-21 節)

まず、先週に学んだことですが、私たちクリスチャンとは、イエス・キリストと、「個人的な関係を持つ者とされた！」ということです。正直、私たちの誰も…、直接は、2000 年前のイエス様とお会いしたわけではありません。しかし、私たちは、神様の御霊…、つまりは、聖霊なる神様の御働きによって、あのイエス様と直接個人的に繋がることができて、そのイエス様から教わったのです。だから、私たちは真理を知ることができたのです。今回のみことばの内、20-21 節には、このように記されています。

20 しかし、あなたがたはキリストを、このようには学びませんでした。

21 ただし、ほんとうにあなたがたがキリストに聞き、キリストにあって教えられているのならば、まさしく真理はイエスにあるのですから。

このみことばは、もしも、私たちが本当に、あのイエス様と個人的に繋がって、そのイエス様から聞き、また、そのイエス様から教えられているのなら、あなた方は皆、かつての無益な生き方からは離れているはずだ！ ということをお教えてくれました。…例えば、先週学んだ [I コリント 2:16](#) に、このようなみことばがあ

りました。『[「だれが主のみこころを知り、主を導くことができたか。」ところが、私たちに、キリストの心があるのです。」](#)⇒つまり、私たちクリスチャンには、『[キリストの心](#)』なるものが与えられた！ だから、私たちはイエス様のみこころが分かるようになり、そのイエス様に従っていきたい！ と願う者へと変えられたのです。…皆さんだて、そうでしょ！

果たして、今日、このメッセージを聞いてくださっている皆さんは、個人的に、イエス様のことを信じ、受け入れられましたか？…ひょっとして、イエス様は「あの人信じ仕えている神様、(あるいは)自分の奥さんが信じている御方」となっていませんか？もしも、そうなら、ぜひ、1日も早く、このイエス・キリストを、真唯一の神様として…、また、救い主として、そして、あなたが信じ仕えるべきご主人様として迎え入れてください。本当の救いには、あなたが、そのような選択 & そのような決心をされるのが絶対に必要です。…そこまでが、先週に学んだ内容でした。

II・かつての自分自身を 脱ぎ捨てた！(22 節)

続いて、私たちが学びたいことの第2番目…、救われた後の私たちの歩みとは、[かつての自分自身を“脱ぎ捨てた”](#)！ ということです。今回のみことばの 22 節には、こう記されています。

22 その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、

ここ 22 節には、『[その教えとは…](#)』という言葉で始まっています。一体、何の教えのことでしょうか？⇒それは、少し前に出てきた「キリストの教え」のことです。少し前の 20 節に、『[しかし、あなたがたはキリストを、このようには学びませんでした。](#)』とありました。つまり、このキリストの教えを学んだら、もう、かつてのような…、イエス様を信じていない頃のような歩みができなくなる、というわけです。

つまり、ここ 22 節以降には、イエス様を信じて、救われたすべての者に対して、イエス様が教えてくださったはずの教え…、その理解について語られているのです。良いでしょうか、皆さん…。ここ 22 節から 24 節までの内容は、すべてのクリスチャンたちが持っているはずの教え・理解なのです。「いえ、私たちの教会は、～主義だからとか、～系だから」ということでは決してなく…、もし、その方が個人的にイエス様を信じ…、本当に救われているのなら、皆が同じように持っているはずの理解なのです。

じゃあ、どんなことが教えられてあるのか？…ここ 22 節には、『[滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべき…](#)』とあります。…実は、ここでも、先程と同じようなことが教えられています。イエス様は、救われたクリスチャンたちに対して、「あなたは、救われる前の…、過去の生活を止めなさい！ 止めるべきである！」と、皆さんに教えてくださっているはずなのです。

ここで、パウロは、かつて、私たちが救われる前のことを、『[滅びて行く古い人…](#)』というように表現しています。かつての…、イエス様を信じる前の私たちは皆、『[滅び](#)』、言い換えれば、私たちの犯した罪の罰である、永遠の裁きへと向かっていたのです。

しばらく前、皆さんと一緒に学んだ [エペソ 2:1-3](#) のみことばが教えてくれたように、生まれながらの私たち人間は、真の神様と敵対した状態で生まれてきます。悲しいかな、生まれながらの人間は、神様ではなく…、悪魔に従ってしまっています。生まれながらの人間は、真の神様のことを拒み…、自分の欲に従って歩んでいる…、そうみことばは教えるわけです。

だから…、そんな私たち人間が救われるためには、「大きな変革」が必要です。だから、イエス様は、ある時、救いについて尋ねてきたニコデモという人物に対して、このように教えてくださいました。[ヨハネ 3 章で、『…人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。』\(ヨハネ 3:3\)](#)、また、『[…人は、水と御](#)

霊によって生まれなければ、神の国に入ることができません。』(ヨハネ 3:5)ともおっしゃられました…。このように、私たち人間が救われるためには、新しく生まれ変わるとい、大きな変革が必要なのです。

どうぞ、今日のみことばに戻って、22 節には、『古い人を脱ぎ捨てる…』という部分に注目してください。この『脱ぎ捨てる』と訳されてある言葉(ἀποτίθημι)は、「脱ぐ、捨てる、しまう、片付ける、監禁する(＝牢屋に入れる)」というような意味の言葉で、しかも、前回に学んだように、アオリスト(＝不定過去)の時制で書かれてあります。…つまり、イエス様を信じたクリスチャンは皆、過去のある時点で、自分の過去の生き方をもう既に、脱ぎ捨ててしまった…、片付けてしまったと言うわけです。

私たちクリスチャンは、そのような、滅びに向かっていた中から救い出されて…、神様によって、新しい者へと造り変えられたのです！それは、ちょうど、II コリント 5:17 に、『だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。』と教えられてある通りです。

「新しく生まれる」…、「新生」という出来事は、救われたクリスチャンの内に、もう既に起こっています。…しかし、残念ながら、罪はまだ私たちの内に残っています。そのために、私たちは救われた後も、一時的に罪を犯したり、神様に逆らったり、神様に対する信頼を失ったりしてしまうのです。

でも、救われる前と救われた後とで、大きな違いがあります。…と言いますのは、かつての私たちの主人は罪でした…。私たちは、生まれながらに、罪に支配されている、「罪の奴隷」でした。しかし、救われた後は、そうではありません。私たちはもはや、罪の奴隷ではないのです。かつては、全くと言って良いほど持っていなかった「神様への思い」が与えられ、私たちは永遠を思って、生きています！だから、そこにジレンマというか(＝罪に対する怒り)があるのです。救われたクリスチャンたちは皆、罪を憎み…、その反対に、イエス様を愛する者へと変えられたのです。

Ⅲ・神にあって、成長していき者へと変えられた！(23 節)

実は、そういったことを、パウロは3つ目のポイントで話してくれています。…私たちクリスチャンは皆、神様にあって、常に、「成長」していき者へと変えられたのです。今日のみことばの 23 節には、こうあります。

23 またあなたがたが心の霊において新しくされ、

ここ 23 節には、『心の霊において新しくされ…』とあります。実は、ここの個所の、『新しくされる』…』という単語だけ、アオリスト(＝不定過去)の時制ではなく…、現在形の時制が使われています。ギリシア語の現在形は、ずっと継続している事柄(つまり、日本語では現在進行形に近い状態)を表わしていると言って良いような表現なのですが、このことは、私たちが日々、経験していることを表わしてくれています。私たちクリスチャンは皆、日々、変化…、日々、成長させられていっているのです、よりキリストに似た者へと…。そう、みことばは教えますよね？

例えば、II コリント 4:16、『ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。』⇒このように、私たちは、毎日毎日、日々、新しくされているのです。神様は、イエス様を信じ、救われたクリスチャンの内に…、つまり、私たちの心に働いてくださいます。だから、私たちクリスチャンの理解や考え方が変わっていくし、進歩していくべきなのです。

でも、そういったようなことは、たった1度だけ起こるような出来事ではありません。神様は、毎日毎日、クリスチャンの皆さんに働きかけてくださるのです…。だから、II コリント 3:18 にも、『私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。』とあるのです。

ところで、皆さんは、ここで言われている『顔のおおい』とは何かご存知ですか？…実は、この直前には、旧約時代のモーセが、主の栄光を受けて、顔が神の栄光によって輝いて、民が皆、恐れて、しばらく、モーセの顔を直接見るができなくなった、ということが書かれてあります。その話の流れでは、実は、私たちにモーセと同じく、『顔のおおい』が掛かっている、と言うのです。それはモーセとは違い、「古い教え」であり、「かつての私たちが持っていたような間違った理解」です。それらが取り除かれる時、私たちは、益々、鏡のように、神様の栄光を輝かせて生きていくことができるのです。

今日のみことばの、『新しくされ…』という言葉は、日本語でも分かるように…、受動態(＝受け身)で書かれてあります。…つまり、自分自身の力で、私たちは日々、新たに変わり、成長していくのではありません。天の神様が！私たちのことを日々新たにし、成長させていってくださるのです。だから、救いとは、いつも言うように、徹頭徹尾…、始めから終わりまで、神様の御働きなのです。特に、御霊なる神様が、私や皆さんのことをキリストに似た者へと変えていってくださるのです！

Ⅳ・神に「ならった」生き方をする者となった！(24 節)

だから、私たちクリスチャンは皆、神様に「ならった」生き方を…、神を模範とする者へとなっていくのです。それが、最後のポイントです。今日のみことばの 24 節には、こうあります。

24 真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。

最後、ここ 24 節でも、パウロは、救われたクリスチャンのことを、ある動詞でもって表現してくれています。それは、『新しい人を身に着るべき…』という表現です。ここでも、みことばは、アオリスト(不定過去)という時制を使って、このことを説明してくれています。これも、天の神様が、もう既になしてくださったと言うのです。ここでも、『着るべき』と表現されてあるように、神様に従っていくことが当然で…、ごく自然である、とみことばは教えます。

そして、その、『新しい人』の説明として、こうあります、『真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された…』って…。クリスチャンとは、神様によって、『かたどり造り出された』者であると言うのです。これは、何かをチョコチョコと細工して作るというような意味の言葉ではなく、「新しく造り出す」という意味の言葉で…、ちょうど、聖書の創世記にあるような…、何も無いようなところから、全く新しいものを造り出すような、「新しい創造」を意味します。

皆さんもよくご存知ですよ？創世記 1 章の記事で、神様が人間を造られた時、何とおっしゃられましたか？⇒創世記 1:26、『神は仰せられた。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように。』』とあります。そうして、初めの人間である、あのアダムとエバが造られたのです！アダムも、エバも…、神に似せて…、神様のかたちに造られたのです。…しかし、残念なことに、彼らは罪を犯し…、墮落してしまいました。…言わば、神様は、アダムたちが犯した罪の問題を「帳消しにしてくださった」のです。

そういったことを、今回のみことばは、「服」のように表現してくれています。かつて、私たちが着ていたものは？と言うと…、22 節にあるように、『人を欺く』ものであり…、『情欲に』まみれていました。そうして、それは、やがて、『滅びて行く…』ものでありました…。しかし、今、私たちクリスチャンは、神様の備えてくださった新しい服があるのです！それは、古い服をきれいに洗ったようなものではありません。神様が、一から造ってくださった…、言わば、オーダーメイド、「全く新しい衣(ころも)」だと言うのです！

その新しい衣は？と言うと…、『真理に基づ』いていて、みことばは教えます。…真理とは何でしょう？⇒イエス様です！私たちのために、神様が用意してくださった衣とは、あのイエス様のような、衣なのです。

その衣は、『義と聖をもって神にかたどり造り出された…』とあります。神様の性質…、その中でも特に重要な、義と聖…、正しさと聖さに似せて造られたものなのです。

ね、皆さん、どう思われます？かつての、みにくいものにまみれたような、汚れ切った、言わば、呪いの洋服と…、もう一方は、新しい、完全な洋服と…、そのどちらを着たいと思われます？⇒本当なら、答えは聞くまでもありません…。だから、今日のみことばは教えるのです。新しい服を着るべきです！って…。しかし、実際には、「私は、神様が喜んでくださるような、新しい服を着なくても良い…。むしろ、これまでと同じような、古い着物…、これまでと何ら変わらない人生を送っていきたい…」という人たちがおります。確かに、実際の服なら、「多少ボロボロでも、長い間、着慣れた服の方が良い…」というのは分かります。しかし、今日のみことばが教えてくれているのは、「あなたは、神様によって、あのキリストに似た、全く新しい者へと造り替えられたし、それに合った新しい着物を与えられたのだ！もう、あなたは、罪にまみれた服を着たくないでしょ？」というわけです。

だから、聖書のみことばは、こう教えるのです、20節、『ただし、ほんとうにあなたがたがキリストに聞き、キリストにあって教えられているのなら…』って…。つまり、その人が、本当に、イエス様を信じて、救われているかどうか？…それに懸かっているのです！

神によって救われた者たちが…、真の神様を知った者たちは、もはや2度と、かつての古い、罪と呪いにまみれた服を着てはならない！って…。だって、そんなのはおかしいでしょ？そう、聖書のみことばは教えるのです。

そういうことを、非常に強く訴えてかけてくれている聖書の箇所が、ローマ6章です。どうぞ、皆さん、幾つかの動詞に注目しながら、ローマ 6:1-7 をご覧くださいませるか？『1 それでは、どういことになりますか。恵みが増し加わるために、私たちは罪の中にとどまるべきでしょうか。2 絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ①私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。3 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた②私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたわけではありませんか。4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られた③のです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。5 もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられた④のは、罪のからだが減びて⑤、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。7 死んでしまった者⑥は、罪から解放されているのです。』

⇒実は、この…、二重線の部分がすべて、アオリスト時制なのです。クリスチャンの皆さん…。皆さんは、もう既に神様によって、新しい者へと造り替えられたのです！だから、皆さんは、イエス様を信じる前と同じような、かつての歩みは、もはや、できないはずなのです。…それは、新しく生まれ変わらせられたゆえであり、神様の尊い恵みなのです。

● 励ましの言葉

しかし、ある意味において、その選択は、あなた自身にあります。かつて着ていたような…、罪と呪いにまみれた古い服を着ていくことが絶対にできないかという、必ずしも、そうではありません。一時的に、そういった古い服を着て、生きていくことも可能でしょう。…だから、今日の聖書箇所にも、22節、『…人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべき…』とあるのです。また、24節でも、同じように、『真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべき…』とありますでしょ？…つまり、選択はあなたにある、と言うのです。

良いですか？皆さん、ここで言われている“服”のイメージは、皆さんの生き方です。皆さんは、キリストによって救われたのです！皆さんには、神様によって、もう既に、新しい、「キリストの衣」が用意されているのです！だから、エペソ 2:8-10 のみことばは、こう教えますでしょ。『8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。9 行いによるものではありません。だれも誇ることをないためです。10 私たちは神の作品であつて、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』⇒ここでも同じことが教えられてあります！良い行いをするから、私たちが救われるわけではありません！救われたから、良い行いしないに歩むよう、神様が私たちのことを導いてくださるのです。

いよいよ、来週から、私たちは、今日のみことばが言うところの、『新しい人』、つまり、救われた者たちが送るべき歩みについて学んでいきたいと思ひます。…どうぞ、誤解しないでいただきたいのは、それらすべて、イエス様を信じたからこそ、意味があるし、救われたからこそ、それが可能なのです。

どうぞ、まず、この神様の恵みに目を向けてくださって、真の神様を拒んだ虚しい人生を送るのではなく、神様の与えようとしてくださっている…、新しい人生を送っていただきたいと思ひます。そして、今、神様を信じ、クリスチャンとして歩んでおられる皆さんも、益々、神様のみこころというものを知って…、もつと、神様の喜んでくださるような歩みをしていくことを心から期待いたします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。